（東秩父村）地域活性化モデルケース（都市・地域）提案書（地方都市型、農山漁村・過疎地域等型）（様式2）

資料2

地場産業振興

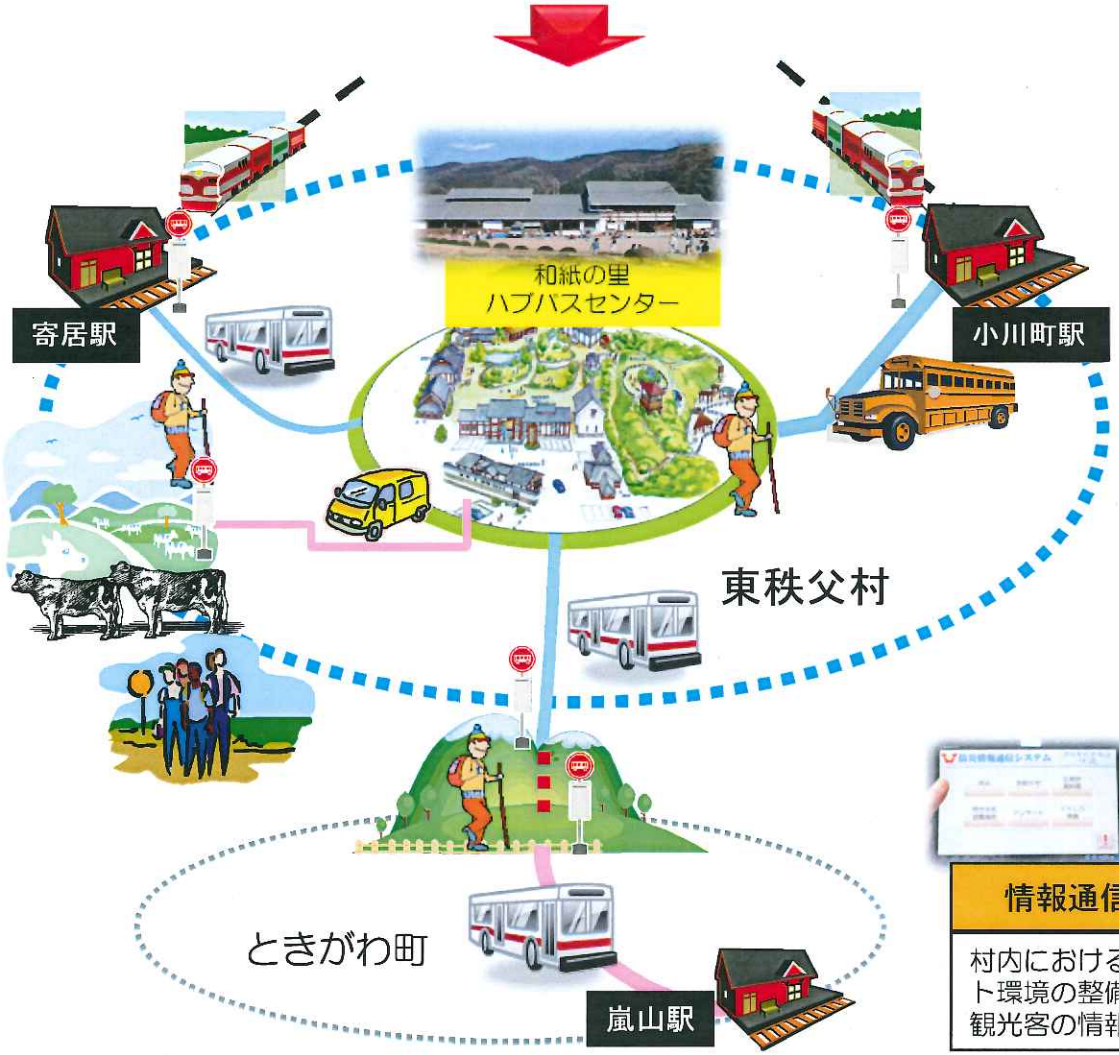
和紙、こんにゃく、水、野菜等の東秩父村の独自の素材を活かした観光客向けの飲食、地場産物品、サービスを事業化することによって産業の育成及び地場の雇用確保が期待できる。販売拠点として和紙の里のコンビニ機能を導入した売店を活用する。

都市と農村交流

当地域はウォーキングのメッカとして観光客が多く、４月に開催される七峰縦走には毎年７千名の申込み者がいる。ハブ＆スポークを導入し和紙の里をバスの結束点と観光の始終点とすることで、今まで利用困難であった観光客の駅から和紙の里への移動が便利になり多くの観光客の集客が可能となり、地域の主要観光点となり得る。

小さな拠点形成

和紙の里を交通の結束点のハブバスセンターとし、ここに地域住民の生活機能向上施設を集約し、またウォーキング観光客の拠点とすることで、和紙の里が村のにぎわいとサービス機能の中心となり、住民の生活利便向上と観光客による経済効果、ハブ＆スポークによる効率的なバス運行によって、住民、観光客によるバス利用者数の増加によって生活路線バスの維持を可能とする。



生活交通確保維持

村営バスと民間バスを統合再編し、和紙の里を施設機能を備えた第二世代ハブバスセンターとし、すべてのバスをハブで結束させるハブ＆スポーク方式により運行便数の増加と住民の利便性の向上、観光客の取り込みを図る。

生活機能確保

東秩父村には連続した商店が存在せず住民の日常買い物不便地域である。
和紙の里にコンビニストア機能を持たせることで住民はＡＴＭ、宅急便、チケット購買日常身の回り品を購入することができるようになり生活機能が向上する。

情報通信確保維持

村内におけるインターネット環境の整備による住民と観光客の情報利用の促進。